

## アドバンストスポーツ I 授業評価・授業研究報告

保健体育講座・石井浩一

### 1. 授業の概観

#### 【目的】

これまでに獲得したスキルと知識を基にして、さらに高度なスキルと知識を習得する。

#### 【到達目標】

- 1) バasketボールの由来・特性について説明できる。
- 2) Basketballの個人的技術が実践できる。
- 3) Basketballの基礎的戦術が実践できる。
- 4) Basketballのルールを理解し、審判ができる。

#### 【授業スケジュール】

- 第1回 : ガイダンス  
第2～5回 : ファンダメンタル・トレーニング  
第6回 : ルール・審判法の理解  
第7～10回 : ファンダメンタル・オフェンス  
第11～14回 : ファンダメンタル・ディフェンス  
第15回 : 筆記試験・総括

#### 【ドリル】

- 第2～5回  
ボール・ハンドリング、ゴール下シュート連続 10 本、ランニング・シュート、ドリブル・シュート、フリー・スロー、2on2、2メンパラレル、サークル・ドリブル 1on1
- 第6回  
特に、パーソナル・ファウル、シリンダーについて説明。審判法については、できず。
- 第7～10回  
ハーフコート 3on3、オールコート 4on4、5on5  
シューティング
- 第11～14回  
ディフェンスのフットワーク（ステップ・スライド、グライド）、1on1、2on2、3on3、4on4、5on5

受講者は3回生4名（男3、女1）であった。ゲーム形式で練習ができる最低10名はほしかつたが、逆に人数が少ない分、細かい部分にま

で指導が行き届いたと思う。授業スケジュール後半でゲーム形式が多くなる時には、受講生ではない学生に参加してもらい、助けてもらった。ただし、毎回確保することはできなかったため、審判法については、ほとんどできなかった。

#### 【成績評価】

各到達目標に対応させて、評価を行うと共に、毎回の授業内容を図示し、ふりかえるアドバンスト・ノート提出させ、点数化する評価をおこなった。配分は以下の通り。

到達目標 1) : 20 点

到達目標 2) : 20 点

到達目標 3) : 20 点

到達目標 4) : 20 点

アドバンスト・ノート（ふりかえりノート） : 20 点

### 2. 授業評価法

以下のアンケートを行った。

Q1 教員の話し方や説明はわかりやすいですか？

- とてもわかりやすい
- まあまあわかる
- わかりにくい
- 全くわからない

Q2 教員の進度は適切ですか？

- かなり速すぎる
- やや速すぎる
- 適切である
- やや遅すぎる
- かなり遅すぎる

Q3 授業のレベルは適切ですか？

- かなり難しすぎる
- やや難しすぎる
- 適切である
- やや易しすぎる
- かなり易しすぎる

Q4 教員は、授業を改善するよう努力していましたか？

改善の必要がなかった  
そう思う  
あまりそう思わない  
全くそう思わない

Q5 シラバスに即した内容の授業が行われて  
いましたか？

とてもそう思う  
まあそう思う  
あまりそう思わない  
全くそう思わない

Q6 あなたは、シラバスに記載されているこの  
授業の到達目標に達したと思いますか？

とてもそう思う  
まあそう思う  
あまりそう思わない  
全くそう思わない

Q7 この授業は全体的に満足のいくものでし  
たか？

とてもそう思う  
まあそう思う  
あまりそう思わない  
全くそう思わない

Q8 この授業の良い点について書いて下さい。

Q9 この授業の改善すべき点について書いて  
下さい。

### 3. 授業評価結果

Q1については、全員「とてもわかりやすい」  
だった。4名と少数だったので、基本的事柄から懇切丁寧に説明できたことが、この評価につ  
ながったと思う。

Q2は全員「適切である」だった。アドバン  
ストスポーツといえども、全員基本がわかって  
おらず、オフENSEに関してはハンドリングの  
段階から時間を割いたし、ディフェンスに関し  
ては、足の位置、運び方といった最も基本とな  
る事柄に時間を割いて、受講者のレベルにあっ  
た進度で授業を進められたと思う。

Q3は3名が「適切である」、1名が「やや難  
しすぎる」であった。おそらく、なかなかつい  
ていけない受講生が、やや難しいと感じたの  
ではないかと考えられる。

Q4は全員が「そう思う」であった。授業は  
教員の経験のみではなく、常に内省し、勉強し  
なければならぬと思う。本授業では、バスケ

ットボール指導教本を読み返したりしながら、  
授業改善に努めたつもりである。そうした姿勢  
は、受講者にも伝わったのであろう。

Q5は3名が「まあそう思う」、1名が「とて  
もそう思う」であった。この質問に関しては、  
受講生がほんとうにシラバスを読んでいるか否  
かわからないので、なんともいえない。

Q6は2名が「とてもそう思う」、1名が「ま  
あそう思う」、1名が「あまりそう思わない」だ  
った。これは、自分に厳しい人ほど、まだ達し  
ていないと考える傾向があると思うので、人そ  
れぞれの考え方の違いが反映されている回答だ  
といえよう。

Q7は、全員が「とてもそう思う」だった。  
受講生のレベルに合わせて、できるだけのこと  
はやったつもりである。その結果、このよう  
な回答になったと思う。

Q8は、授業の良い点として「受講生のレベ  
ルに合わせた内容で、段階的にスキルアップが  
できる」「バスケがうまくなった。楽しい。もっ  
とバスケがうまくなりたいと思った。」「少人数  
で個人個人に先生が関わってくれていた。」「先  
生が熱血であること。」という回答が挙げられた。

Q9の改善すべき点については、「人数が少な  
い」「人数が少なく、できない内容もあったため、  
人数を集める」「もっと大人数でやりたい。ゲー  
ムの時間が長い方がよい」が挙げられた。

### 4. まとめ

授業評価の結果に私見を加えると、以下のよ  
うになる。

- 1) 受講生の回答から、授業はおおむね成功し  
たと考えられる。
- 2) 審判法については、人数の関係からほとん  
どできなかったことが残念である。
- 3) オフENSE、ディフェンスの学習ともに、  
やはり人数が少ない故に、できなかった内  
容があった。
- 4) 受講生は終始意欲的に取り組み、個人的ス  
キルは、かなり向上したと思う。
- 5) ルールに関する学習時間がやや少なかった  
のではないかと思う。
- 6) 男女混合の授業だったので、教員、受講生  
ともに若干やりにくい面はあった。
- 7) 来年度のアドバンストスポーツに向けて、  
どのように人数を確保していくか、課題で  
ある。最低10名揃えば、今回できなかった  
ことはできるようになるし、受講生の満足  
度をさらに高めることにつながるだろうと  
思う。